

平成18年12月(2006年)No.492

今年も無事師走を迎えました 後半遂にハイビジョン作品が過半数

会長 合原一夫

平成18年度の例会も早や最終の12月例会を迎えました。一年立つのが早いと感じるのは、やはり年のせいでしょうか。どうも足腰が弱くなってきて三脚も軽いのを選ぶようになってきたのがその証しの様に思えます。しかし、OMC会員諸氏の活躍めざましいものがあります。みんな年とってきている筈なのに、旺盛な作品づくりのエネルギーはどこからきているのでしょうか。

今期になってから11月例会までの集計をとってみますと、1例会当りの出席者数は27.3人、出品数は14.3本で例年とほぼ変わらないのですが、前期ハイビジョンが36%だったのに対し後期、53%を占めるに至りました。4対3は前期38%、後期22%、ワイドは前期26%後期25%でした。編集にわずらわしい新しい技術に積極的に取り組んでおられる会員さんが増えてきたことに脱帽です。来年はこの比率がどうなっていくのでしょうか。4対3が貴重価値が出たりして。それにしても全国コンテストや日本アマチュア映像連盟の「日本を縦断する映像発表会」では4対3を基準にしていますが、大阪は特別に進み過ぎているのでしょうか。他が現状に満足しているのでしょうか。

まあとにかく、先端を行くというのは楽しいものです。他を気にせず、OMC会員諸氏は、思いのままに我が道の作品づくりを来年も大いに楽しんで下さい。皆、元気で新しい年を迎えましょう。

12月例会は第3土曜16日

12月第4土曜23日は祭日で会場がお休みなので、例会は第3土曜日16日18時より大阪市立難波市民学習センターにて開催します。今年最後の例会です。2次会も楽しい例会にどうぞお集まり下さい。

作品の方も遠慮なくお持ち下さい。

■来期会費の納入お願いします

年会費 8,000 円を12月例会場にて会計へ納めて下さい。例会開催前は混みますので早めにお越し下さい。できるだけ釣銭のいらぬようにお願いします。

■新年会出席確認

新年例会は1月第3日曜21日の13時から例会と総会を行います。17時過ぎより5階のスーパードライ難波にて新年会を開催いたします。(会費 5,000 円当日会場にて徴収)。出欠を同封のハガキにて1月10日までに投函して下さい。

■世話役会のお知らせ

世話役の皆さんは例会日の15時より第1会議室にて開催しますのでお集まりください。来期の役割分担の話し合いや会計報告などがありますのでよろしく願います。

■幹事会のお知らせ

例会日の13時より第1会議室にて開催します。年度賞の選考会を行いません。幹事の皆さんよろしくお集まり願います。

来年の撮影会で何か情報を

年末年始になると来年のOMC一泊撮影会のことが気になります。祭がからむと早目に宿を押さえないといけませんので1月中には決めたいものです。何かいい情報がありましたらお寄せください。

■名簿の訂正

岡本至弘さんの、携帯は090-2114-8762
E-Mail: nnkc60203@maia.eonet.ne.jp
を追加して下さい。

11月例会レポート

さすがに11月例会ともなると、朝夕めっきり冷え込む季節となり、御堂筋のイチョウ並木も色づいてきました。

今月から井上さんと錦さんが正式に入会され、そっそく井上さんが作品を持参されすぐれた腕前を披露されました。今後が楽しみな方です。今月の司会は吉岡氏で作品が16本と多いので大忙しの司会となりました。書記は前田氏、機材は河合、江村、増池の3氏、受付は宮崎、森口の2氏で会を進行しました。

出席者：有村、井上、江村、岡本、奥、関、紙本、河合、黒田、合原、進藤、田中、鉄具、錦、秦、華岡、藤原、前田、増池、森、森口、森下、森田、宮崎、安居、山本、吉岡の27氏。

■上映作品(今月の講評は前田世話役です)

1. 西梅田寸描(その2)

増池 茂さん 6分25秒

年々開発が進む西梅田地区の風景を増池さん独自の感覚で切り取ってきた映像作品。その2と書かれているように、第2作目という作品です。今回の作品は前作とは違った視点でまとめています。屋外、屋内、店外、店内とよくこまめにカットを拾われたものと感心しています。初めの1分位のところで吹き抜けのエスカレーターを上から写したシーンは意表をつかれてよかったです。しかしBGMがアップテンポすぎたように思われせわしない雰囲気でした。

2. 籠城の果てに

紙本 勝さん 9分0秒

先月に引き続いて、悲話にまつわる戦国時代のお城の物語です。三木城と鳥取城の城主と羽柴秀吉との戦いの様子を映像とナレーションで聞かせます。昔の話だけに映像がなく大変難しいテーマに取り組む同氏のご努力に敬意を表します。あまり人が行かないような城跡を訪ねてカットを拾い、絵も挿入して映像を作り、書物を読んで勉強するなどなかなか準備も大変だろうと推察します。困難な題材をよくこなされ判りやすく解説されました。戦国時代の宿命とはいえ、「三木の干し殺し、鳥取の渴え殺し」の史実がよくわかり勉強になりました。

3. 万里の長城

山本正夢さん 9分30秒

万里の長城を、山海関から嘉峪関までを僅か10分弱で見せてくれる壮大な紀行記録のエッセンスです。4000Kmを4年かけて撮影しまとめたものです。これまでの山本作品は、人が知らない辺境の地を訪ねて作品にするという誰も出来ない映像づくりをなされてきましたが、今回は万里の長城という誰もが知っている世界遺産がテーマです。しかし観光客があまり行かないところを撮っておられるのはさすがだと思います。

す。前半の BGM は少し軽やかな、と思いますが、大同のシーンからの BGM 選曲はピタリと合っていました。被写体が重厚なだけに、前半の BGM の選曲を再考されたらいかがでしょうか。それにしても毎回素晴らしい海外作品を見せて頂いて、例会に出席することが楽しみです。

4. 名水紀行・岩井滝まつり (W)

森口吉正さん 8分40秒

沢山の名水紀行を発表されてきました。一時期、道紀行を撮られていましたが、今回は名水紀行に戻られました。従来の作品群とは異なる纏め方と思います。従来の作品は「名水」にスポットをあてていましたが、今回作品は名水の取り上げが一部分で、どちらかというとお祭りに主題がおかれていました。「裏見の滝」といって滝の裏側にも行けるのは珍しい光景でした。護摩焚きの煙を引き寄せて自分の体にかけるシーンはなかなか秀逸でした。しかも、いつものながらの聞きやすいナレーションで丹念に説明され判りやすい作品となっています。独特のしっとりとした情感が漂ういい作品に仕上がっています。敢えて名水紀行とされずに、「岩井滝まつり」でもいいのではないかと思いました。

5. こんぴらさん 桜花祭 (W)

鉄具嘉夫さん 9分25秒

琴平の「こんぴらさん」の桜花祭を撮られたものですが、丁寧に作られてあります。ゆったりとしたお神楽の舞いに日本の祭りの原点を見た感じがしました。雨の中でよく頑張っただけのものと感心しました。しかし、映像が横長に映写されたので、違和感が残ります。カメラはパナソニックの AG-DVC30 だそうですが、16:9 方式の撮影は上下をカットしたレターボックスだそうです。スクイーズ方式の 16:9 でないと難しいです。

6. THE NIGHT (W. CAM)

秦 峰一さん 12分25秒

大阪の夜の情景があべの筋から始まって、新世界界限、道頓堀へと続きます。夜の街の雰囲気はさすがによく表現出ています。細かいアップカットを拾い、絵を組み立てていっています。画は最後に駅での電車の発着が数回繰り返されますが、少し

長いように思えました。12分という映写時間も長かったようです。電車のカットを整理し、街の情景も整理して10分以内にされたらもっと締まって良くなったと思いました。BGM も最初のセンチメンタルジャーニ、セントルイスブルースの歌のある曲が使われていますが、やはり歌詞のない曲がいいでしょう。モダンジャズ等はいかがでしょうか。サイレント・ナイトの曲になってホッとしました。いかにも大阪のクリスマスらしい雰囲気が漂ってきました。

7. 美ヶ原雪景色 (HDV)

有村 博さん 7分27秒

今年の初めに2泊3日で撮影に行かれたそうです。厳冬の美ヶ原の情景を克明に描いておられます。相当寒かったと思いますが、よくも色々なカットを拾っておられたのには感心しました。なかでも厨房室に出来た氷紋は綺麗でした。自然が作る不思議な文様です。つい見過しそうな厨房のガラスに目がいったのはさすがだと思います。有村作品は現地で自分の声に、ナレーションを入れた作品に仕上げられています。単なる風景描写作品ではなく、自分の感想を述べた紀行作品に仕上げているのは大変良かったと思いました。

8. うつぼパーク (HDV)

江村一郎さん 5分50秒

今年の5月に鞆公園で撮られた作品です。雨の中の被写体は特有の情感があっていいと思います。この映像を見ると天気がいいばかりが撮影日和ではないということが判ります。後半は雨も上がって公園での結婚披露へと続きます。雨から始まって、新郎新婦の新しい門出に相応しい天気になりました。江村さんらしいアップカットを多用した切れのいい編集技術に、アップテンポの曲が乗って歯切れよく見られました。

9. 秋の日・余部 (HDV)

前田茂夫(筆者) 7分35秒

初めて余部に行ってから、丁度1年になりましたが、よくもまあ毎月続けて通ったものだと思っています。余部も来春から工事が始まるとのことで、今が旬と観光バスを連ねて多くの人が訪ねてきます。あと半年ばかりで工事が始まったら、

様子は一変するでしょうね。

10. 冬の白い妖精たち (HDV)

進藤信男さん 9分20秒

新潟県の瓢湖に訪れたオオハクチョウとコハクチョウの映像です。進藤さんの作品はナレーションがあるので、判りやすいです。ここ瓢湖には随分沢山の水鳥たちが訪れて、湖面が一杯になるような状況です。コハクチョウは自分で田んぼに餌を探りに行くそうですが、おおハクチョウやカモ類はあまり行かないとか、これでは人が餌を与えないといけませんね。進藤さんは大きな鳥を撮れば第一人者で実的に的確に捉えています。慣れない人ではこうは行かないでしょう。

11. 学園祭見聞録 (HDV)

奥 宏さん 5分47秒

大阪芸術大学の学園祭をスナップした作品です。さすがに若い美しい女性が沢山いて目の保養になりました。映像表現研究所、撮影所も出てきましたが、最新型ではない放送設備のようです。年に1回はこのような学園祭を訪問するのも楽しそうです。

12. 列車でチェンマイ (HDV)

森田光春さん 8分28秒

バンコクから終点チェンマイまでの751Kmを13時間をかけて走る特急列車に乗っての旅行記です。夕方の6時に出発して翌朝の7時頃到着するようですが、途中の風景、列車内の情景などを克明に撮られています。チェンマイに近付いたら見渡す限りの田んぼ風景は日本と同じだと思いました。終点チェンマイ駅の地形を上空からの写真で見せたのはよかったです。チェンマイまでの珍しい列車の旅でした。

13. ナイアガラ (HDV)

関 剛さん 7分25秒

いままでナイアガラの作品を何本も見ましたが、関作品は一味も二味も違う作品に仕上がっています。ご本人は観光ビデオと謙遜されましたが、関さんらしい感覚が随所に感じられました。TOPシーンの虹からのズームバックは意表を突かれました。物凄い水煙には度肝を抜かれました。さすが世界の名瀑は違うなという印象です。この作品を見ると、ナイアガラに行ったような気分になりました。

14. 僕の頭の中 (HDV)

安居利次さん 4分0秒

出品の度にいつも斬新なアイデアの作品を作られて私達を楽しませてくれます。今回もご自分の脳のMRI写真を組み合わせてユニークな作品を作られました。このような発想は普通の人には思いつかないテーマです。何でも10年前に脳梗塞を患ったそうですが、その場所がここでと図示されたのには驚きました。司会から本当にそうですかと問われましたが、ここではそれ以上に詮索しないことにしましょう。

15. 光と音の饗宴in奈良 (HDV)

黒田敏彦さん 16分40秒

実に素晴らしい作品で驚きました。地元、東大寺の色んな出来事を「光と音」に絞って映像化されました。克明に映像を集め、東大寺の一大叙事詩に仕上がっています。SE、BGMの使われ方が実に良かったと思います。お水取りの大松明のシーンは圧巻です。いいポジションで撮られてあり、特別の許可がないと撮られないシーンです。しかし、映像の中身を見ると、女性シンガー、男性シンガー及び河内音頭のシーンがありましたが、この作品に本当に必要だったのだろうか、と思います。確かに東大寺で開催されたイベントには違いないのですが、どうも私には異質で不要ではなかったかと、思われました。映写時間も16分はやはり長いと感じました。この3シーンをカットすれば、時間も短くなり、作品もすっきりし纏まったように感じます。しかし素晴らしい作品でした。

16. ある夏の午後のひととき (HDV)

井上勝彦さん 7分30秒

新入会員の思い切った映像に驚きました。スタビライザーというカメラ安定装置を手作りされ、テスト撮影した映像です。この種の装置は幾つか市販されているのですが、相当高価です。それを手作りされたそうで映像も、実にスムーズに撮影されていました。映像は神戸のホテルや植物園等山手の町並みを全編移動撮影していますが、実にスムーズです。是非装置の実物を拝見したいものと思いました。

以上で例会を終え、喫茶組と居酒屋組とに別れて散会しました。